



本校教育目標：【自主】自ら進んで学ぶ生徒【寛容】明朗で思いやりのある生徒【挑戦】健康でたくましい生徒

〈重点目標〉自らよく考え、やり抜く生徒 ～夢の実現～

原町三中だより

令和元年12月18日(水)
第28号
発行責任者
校長 鈴木 太
電話 22-3802

思考力・読解力の育成のために ～新聞タイム～

本校では、水曜日の部活動休養日を活用し、学力の向上を図るためのパワーアップタイムを設定しております。パワーアップタイムには基礎学力向上のための「パワーアップテスト」、定期テストに向けての「質問タイム」、思考力や読解力を育成するための「新聞タイム」を実施しております。

「新聞タイム」については年3回実施しており、12月11日(水)には第2回目の新聞タイムを実施しました。朝日中高生新聞を全校生徒に配付し、その中から自分で記事を抜粋し、それについての意見や感想をまとめるものです。生徒の皆さんは、自分の興味のある記事を選んで、20分間集中して取り組んでいました。



〔生徒の意見・感想〕

・「ノーベル賞受賞 吉野 彰さん」

今年、ノーベル化学賞を受賞された吉野彰さん。受賞の理由は、リチウムイオン電池の開発だ。リチウムイオン電池は新しい「モバイル時代」を切り拓いた。しかし、リチウムイオン電池は爆発などの危険性があった。そのため「いくつも壁にぶつかった。でもその壁にぶつかるたびに『なんとかなる』という頭のやわらかさで乗り越えてきた。」という。

私はこの記事を読んで、壁にぶつかったら、あきらめない気持ちと、壁が来たら「ゴールに近づいている」と前向きに考えるようにしたいと思った。また、興味を持つことの大切さを知ることができたので、いろんなことに興味を持とうと感じた。(1年 渡部未悠さん)

・「日本の読解力について」

今回、79の国と地域で行われた学習到達度調査(PISA)で、日本の「読解力」の平均点・順位が一気に下がっているということが、経済協力開発機構(OECD)から公表されました。2000年頃に比べて、「数学的リテラシー」の平均値が低下していることや、「読解力」も10位より上の成績があった日本が、今では15位になっています。平均よりは高いものの、これからのことを考えると心配です。このようなことになるのにはやはり、インターネットの使いすぎや学力が低下しても「まあいいや」と思う人が多くいるからなのではないかと私は考えました。

最近スマートフォンなどの使いすぎで読解力が低下するほかにも、視力の低下や全体的な学力の低下も見られています。ただ逆に「科学リテラシー」が上がっているので、日本は科学的なことが特に優れているということです。これからは、プログラミングなどの方や科学的なことに力を入れたらもっと日本は発達し、より良い環境になると私は思っています。(2年 高澤璃乃さん)

・「サッカー日本代表・長友佑都選手のプロ意識」

「ワールドカップアジア予選のキルギス戦に向けた現地での練習初日の出来事。練習会場に着いた選手たちを現地の女性が一口大の揚げパンを持ち、出迎えてくれた。ほとんどの選手が素通りする中、長友選手は笑顔で会釈しながら一つ右手でつまんだ。そして、報道人に向かってポーズを取ってくれた。」

どれだけ大物になろうと、周りへの感謝を忘れず、相手のことを思いやる行動ができる長友選手を素晴らしいと思いました。また、人は一人では生きられないので、自分と関わりを持っている人すべてに感謝の気持ちを忘れず生きていける人になりたいと思いました。そして、あいさつや返事など基本的なことができるようになり、そこから周りに目を配り、自分が求められている場面で活躍したいです。周りに行動で示し、それを見た人たちに伝えられる人、後輩たちの心を動かせる人になりたいです。(3年 渡部慧志さん)

